

米国金融政策（2024年12月FOMC）

市場予想通りに0.25%ptの追加利下げを決定

2024年12月19日

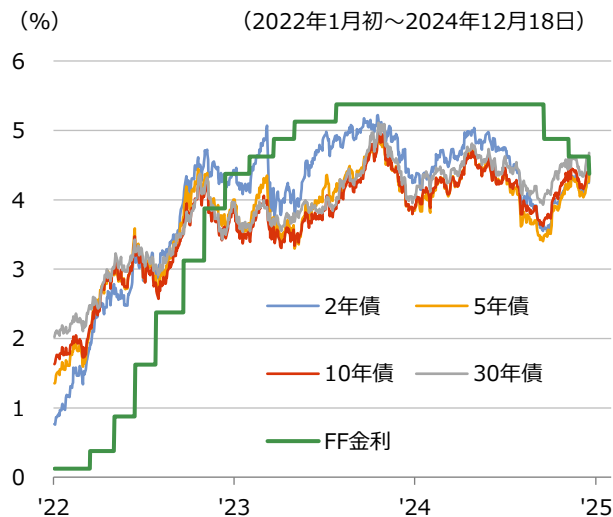
金融政策の正常化は新局面入り、利下げペースは大幅鈍化へ

FRB（米国連邦準備制度理事会）は12月17日～18日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを0.25%pt引き下げ、4.25～4.50%とすることを決定しました。他方、保有証券の縮小ペースは国債で月額250億米ドル、住宅ローン担保証券で月額350億米ドルとの方針を維持しました。

声明文では「追加的な調整の程度と時期を検討する上で」、委員会はデータやリスク・バランスを慎重に精査していく旨が示されています。「程度と時期」が新たに指摘されたことで、利下げは早くも新局面に入ったと窺えます。実際、FOMC参加者のFF金利見通しでは、2025年内の利下げ回数が中央値で2回と前回9月の4回から半減しました。パウエルFRB議長は金利見通しの引き上げについて「足元の堅調な経済やインフレ見通しを反映」としたほか、トランプ次期政権の政策について「時間をかけて注意深く評価していく必要がある」としました。

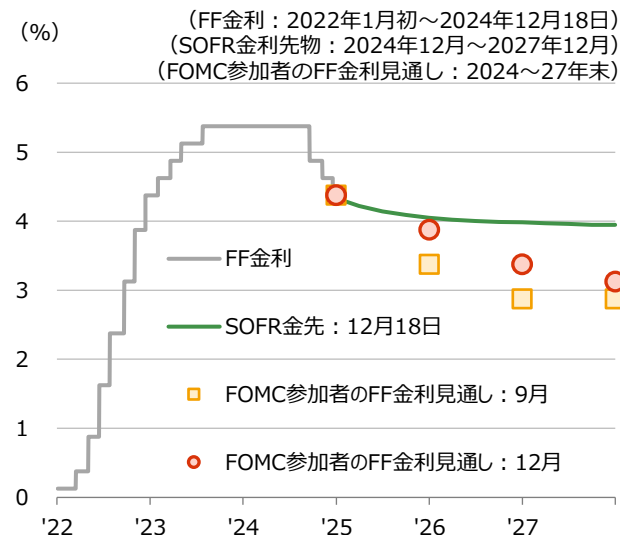
概ね想定通りではありながらもタカ派的な政策決定を受け、金利は全体的に大きく上昇した一方で、株価は大幅に下落しました。2025年以降のFOMC参加者のFF金利見通しがかなりばらけているように、トランプ次期大統領の政権運営次第で見通しが変わる可能性は十分にあります。金融政策スタンスも徐々に景気抑制的ではなくなっており、長期金利は方向感を欠いた広範なレンジでの推移を想定します。

FF金利と米国債利回り



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーク

FF金利の実績と見通し



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
SOFRは担保付翌日物調達金利の略 (出所) FRB、ブルームバーク

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management